

1. 研究テーマ

石見神楽の魅力を伝える情報発信の在り方

2. 研究の背景及び目的

石見神楽は、島根県西部地域を中心に継承されてきた代表的な伝統芸能であり、地域住民の娯楽や交流の場として重要な役割を担ってきた。特に浜田市は石見神楽の中心地として知られ、130を超える数多くの神楽社中が存在し、地域文化の継承を支えている。

一方で、近年は少子高齢化や人口減少の影響により、石見神楽の継承は年々厳しくなっている。社中の構成員の高齢化や後継者不足が進行しており、将来的な存続に不安を抱える社中も少なくない。また、石見神楽は2025年の大阪・関西万博で公演するなど知名度を高めるために発信しているものの、その魅力は十分に伝わっているとは言い難い状況にあると考える。

実際に地域外の人々の中には「どの神楽も同じ」「一度見れば十分」といった印象を持つ人も多くいると考える。こうした認識は、石見神楽の継続的な鑑賞者を増やす上での障壁となっている。しかし、実際には社中ごとに演目の演出、舞や囃子の表現に違いがあり、それぞれ社中の特徴や意識している点が大きく異なる。石見神楽は社中によって特徴が大きく異なるため、様々な社中の石見神楽を鑑賞することで様々な視点で楽しむことができる。この多様性は、石見神楽の大きな強みであり、鑑賞者に「選ぶ楽しさ」を提供することができる。これまでも石見神楽をPRするツールは存在していたが、「各社中の個性」に焦点を当てたものは数少ない。この点が十分に発信することができておらず、石見神楽への継続的な関心につながらない要因の一つであることが考えられる。

本研究の目的は、石見神楽の魅力を改めて整理し、特に社中ごとの違いや個性に着目することで、より効果的な情報発信の在り方について明らかにすることである。

3. 研究内容及び研究方法

本研究では実際に様々な社中の石見神楽を鑑賞し、テンポや舞い方、衣装などの社中ごとの特徴を把握し、各社中の方に実際に質問する。各社中が重視している点についても正確に把握する。

石見神楽の歴史に加え、各社中の特徴や魅力をまとめた動画を作り、SNSで発信する。効果を検証するため、実際に浜田市三宮神社で開催される有料の神楽公演の会場においてアンケートを実施し、アンケート結果を基にPR動画のブラッシュアップを行う。

アンケート調査の内容については「石見神楽を知っていたか」「いつ頃から知っているのか」「なぜ石見神楽に興味を持ったのか」「これから社中ごとの違いを発信すれば、石見神楽をより楽しめると思うか」に加え、動画に対しての改善点を尋ねる。

4. 研究結果

4-1.社中ごとの違いの明確化

実際に様々な社中の石見神楽を鑑賞し、テンポや舞い方、衣装などの社中ごとの特徴を把握し、各社中の方に実際に質問した。各社中が重視している点についても正確に傾聴した。

調査の結果、図1のように同じ神楽であっても社中ごとに特徴が大きく異なることが明らかになった。

団体名	テンポ	舞い方・特徴	衣装	大蛇へのこだわり	お面のこだわり	オリジナルの演目
長澤神楽社中	・八調子	・囃子にあった舞	・所持数が多く、購入から100年経過する衣装もある	・白大蛇のトリ発祥	・木彫りの面 ・唯一無二の型(般若、木鳥の蛇頭)	・弁慶加藤 清正
日脚神楽社中	・八調子	・他の社中よりテンポが速い	・昔の衣装を今でも使用	・逆巻き ・昔ながらの頭	なし	なし
安城神楽社中	・八調子	・昔ながらの素朴な舞	・新しい衣装を取り入れる	・より生きた大蛇	・人倫の般若の面	なし
長浜神楽社中	・八調子	・昔ながらの淡泊な舞	・他社中では見られない独自の柄の衣装	・自分たちが蛇胴を使い始めたというプライド	・長浜が発祥地であるため、他では見られない独自の面	なし
有福保持者会	・六調子 ・八調子	・昔からある有福の神楽を継承し続けている	・絢爛豪華	・揃える ・本物のように操る	・昔の面を修理しながら使う	・鬼首岩 ・柿本人麿
河内奏楽中	・八調子	・ゆったりした渋めな舞	・派手な衣装	なし	・頼政の面が他の社中と違う	・三隅兼連

上府社中	・八調子	・その役になりきった昔ながらの舞	・流行りの刺繍ではなく、昔からのスタイルを維持	・体が見えないよう一人ひとりになり切る	・狐の面	・大江山
------	------	------------------	-------------------------	---------------------	------	------

図1 社中ごとの特徴をまとめた表

4-2.鑑賞者の意識調査

本研究では、石見神楽に対する鑑賞者の認識や関心の持ち方を把握し、今後の情報発信の在り方を検討するため、アンケート調査を実施した。アンケートは、浜田市三宮神社で開催された有料の石見神楽公演に会場した鑑賞者を対象に実施した。

調査方法としては、公演終了後に研究の趣旨を説明した上でアンケート用紙を配布し、任意でウェブ調査を実施した。

石見神楽を知っていましたか。

31件の回答

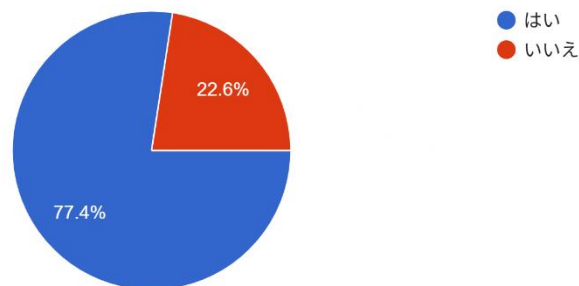


図2

いつ頃から石見神楽を知っていますか。

24件の回答

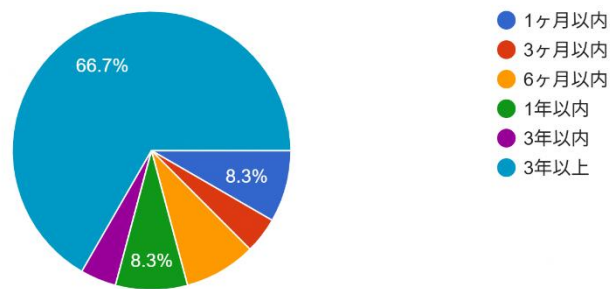


図3

図2より、「石見神楽を知っていたか」という質問に対して、多くの回答者が「知っていた」と回答していたが、約2割が「知らなかった」と回答していた。また、図3は「石見神楽を知っていた」と回答した人に対しては、「いつ頃から知っているのか」の調査を行った。約3割が「1年以内に石見神楽を知った」と回答しており、石見神楽を「知らなかった」と回答している人と合わせると、約半数の人が1年以内の石見神楽の新規鑑賞者であることが明らかになった。有料の石見神楽公演会場でアンケートを実施したため、継続的な鑑賞者が多いことをイメージしていたが、新規鑑賞者が多く、予想外の結果となった。

なぜ石見神楽に興味を持ちましたか。

31件の回答

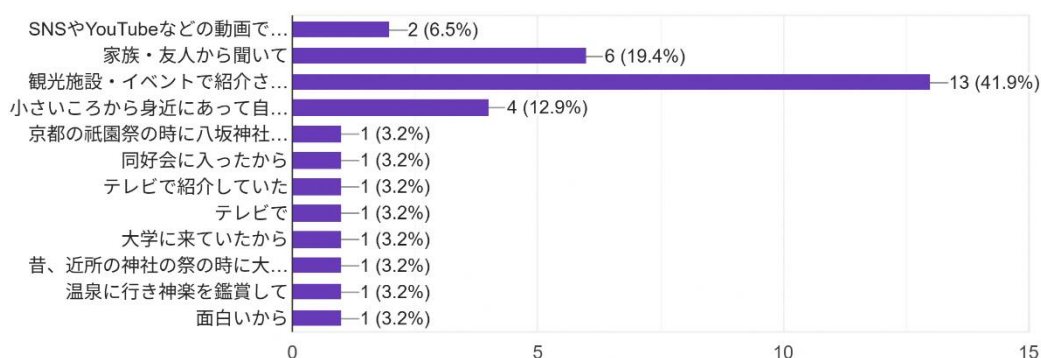


図4

図4から、石見神楽に興味を持ったきっかけは約4割の人が「観光施設・イベントで紹介されていたから」と回答していた。このことから、石見神楽を鑑賞するという目的ではなく、観光施設・イベントに訪れたついでに石見神楽を鑑賞する中で興味を持つ人が多いことが分かった。

これから社中ごとの違いを発信して理解してもらおう...た人はもっと石見神楽を楽しめると思いませんか。

31件の回答

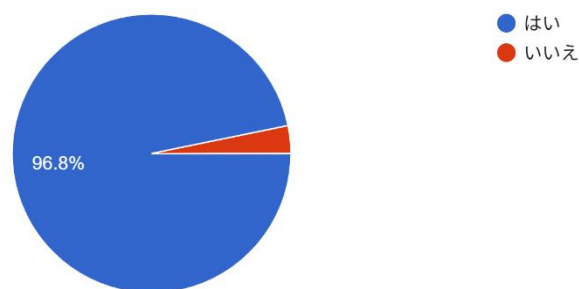


図5

図5では、「社中ごとの違いを発信することで、より石見神楽を楽しめるか」の回答結果である。これはほとんどの人が「社中ごとの違いを発信して理解することができれば、より石見神楽を楽しめると思う」と回答していた。このことから、これからただ石見神楽という存在を発信するだけでなく、社中ごとの違いを加え、より詳細に発信していくことが求められると考える。

アンケート回答者に指摘していただいた改善点を基に動画のブラッシュアップを行った。ブラッシュアップした動画については以下のとおりである。

<https://youtu.be/qA4kj5zl0Dc?si=oDqQEv4eWBQFCYqS>

5. 考察

本研究を通して、石見神楽は地域の伝統芸能という枠にとどまらず、社中ごとの個性や価値観が色濃く反映された、非常に多様性のある文化であることが明らかになった。これまで石見神楽は「迫力がある」「大蛇がすごい」といった単純なイメージで一括りにされがちであるが、実際にはテンポや舞い方、衣装、大蛇やお面に対するこだわり、さらにはオリジナルの演目の有無など、社中ごとのに大きな違いが存在している。

この違いは、鑑賞者にとって気づきにくい点であるが、社中ごとの違いを知ることで石見神楽の鑑賞体験を大きく深める要素であると考えられる。アンケート結果においても、ほとんどの鑑賞者が「社中ごとの違いを知ることで、より石見神楽を楽しめる」と回答しており、情報の与え方次第で石見神楽の価値をさらに高める可能性があることが示唆された。

特に注目すべき点は、有料公演でありながら約半数が石見神楽に触れて1年以内もしくは今回初めて知った層であったことであると考えられる。この結果から、石見神楽は決して固定的なファンだけに支えられているだけでなく、観光施設やイベントをきっかけとして新規鑑賞者が流入していることが分かった。つまり、情報発信の仕方次第では、今後より鑑賞者を拡大できる余地が十分にあると考えられる。

その一方で、現状の情報発信は「石見神楽とは何か」という導入的な内容に偏りがちであり、複数回鑑賞したくなるような仕掛けが不足しているように感じていた。ただ石見神楽の動画を閲覧してもらうだけでなく、本研究で制作した動画のように、社中ごとの特徴や考え方を可視化し、「どの社中を見に行くかを選ぶ楽しさ」を提示することは、継続的な鑑賞につながる有効な手段であると考えられる。これは、単に神楽の魅力を伝えるだけでなく、石見神楽というブランド価値を高めることにも寄与するものであると考える。

6. 今後の課題と展望

本研究にはいくつかの課題も残されている。今回、調査対象となった社中数およびアンケート回答数に限りがある点である。浜田市内の複数の社中を対象としたものの、石見神楽全体を網羅するには十分とは言えず、地域や社中の規模による違いを十分に反映できていない可能性がある。今後はより多くの社中を対象に調査を行い、共通点と相違点を体系

的に整理することが求められると考える。

また、アンケート調査の実施場所が神楽公演会場に限定されていた点が挙げられる。今回の調査では、すでに石見神楽に一定の関心を持つ鑑賞者が含まれており、新規鑑賞者が多く確認できた点は良かったが、石見神楽を一度も見たことなく、全く知らない遠方者の意識は十分に把握できていない可能性が高い。今後は観光施設やイベント会場、さらにはオンライン調査などを活用し、より幅広い層を対象とした調査を行う必要があると考えられる。

さらに、情報発信の手法についても改善の余地がある。今回の研究では動画による発信を行ったが、視聴回数や反応を長期的に追跡することまではできていない。公演終了後に研究の趣旨を説明した上でアンケートを実施したため、動画の閲覧やアンケートへの協力をしていただけた可能性は大いにあると考える。今後はより多く見てもらえるような動画に修正していき、動画の再生数や視聴者層、コメント内容などを分析し、どのような表現や構成が関心の喚起につながるのかを検証することが重要である。また、観光施設・イベントきっかけでの関心が多くあったため、SNS だけでなく、観光パンフレットやウェブサイト、現地での案内表示など、複数の媒体を組み合わせた情報発信も検討すべきである。

今後の展望としては、社中ごとの特徴を整理した情報を継続的に蓄積し、鑑賞者が「次はどの社中の神楽を見てみたいか」を選べるような仕組みづくりが求められる。これは、石見神楽を一度きりの体験に終わらせず、繰り返し鑑賞したくなる文化へと発展させることにつながる。また、こうした取り組みは鑑賞者の増加だけでなく、将来的な担い手の確保や地域への愛着形成、地域住民の石見神楽に対する価値の再認識にも寄与すると考えられる。

以上より、石見神楽の継承と発展のためには、社中ごとの個性を尊重し、分かりやすく発信し続けることが不可欠である。本研究で得られた知見を基に、今後さらに調査と発信を重ねることで、石見神楽が地域内外の人々にとって、より身近で魅力的な文化として受け継がれていくことを期待したい。

【参考文献】

・FNN プライムオンライン、『「石見神楽」が大阪・関西万博のステージに “55 頭立て”大蛇など新しい演出で「進化」 継承のバトンを次の世代へ』

<https://www.fnn.jp/articles/-/897573?display=full> (最終閲覧日：2026 年 1 月 19 日)

・石見神楽公式サイト『祝！日本遺産認定「神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ～石見地域で伝承される神楽～』

<https://iwamikagura.jp/info/2071/> (最終閲覧日：2026 年 1 月 19 日)

・浜田市「石見神楽の保存・伝承に向けた検討について」

[shiryou2.pdf](#) (最終閲覧日：2026 年 1 月 19 日)

・有福温泉スタイル「石見神楽とは」

<https://arifukustyle.com/> (最終閲覧日：2026年1月19日)